

令和元年度 国際日蓮学研究所年度事業案

1)、研究所 学術関係事業

◎東国大学校仏教文化研究院 学術交流・共同調査事業【継続】

昨年度末、韓国・東国大学校において、身延文庫所蔵『天台四教儀』の共同研究に関する来年度以降の研究内容についての検討を行った。ここで仏教文化研究院・金 天鶴教授は「本プロジェクトの期間も残すところ2年となり、その間に共同学術セミナーなどの開催や共同研究の成果を出版できるようにしていきたい」との意向を述べられ、本年度はセミナーの開催や共同研究の成果の刊行をめざし、具体的なセミナー内容の検討や、更なる身延文庫共同調査の実行を行う予定である。

◎ラオスプロジェクトの推進と記念事業【継続・新規】

本年度もラオス・世界遺産修復プロジェクトを継続して行う。また新規事業として本年度は標記プロジェクトの20周年にあたり、記念論文集（仮）の刊行、またルアンパバーン世界遺産地域への表敬訪問（団参など）を共同企画する。

2)、定期刊行物の出版

現在、研究所として『日蓮学』、『身延山資料叢書』、『のみおと』などを刊行している。本年度発刊予定の『日蓮学』第三号では「第70回日蓮宗教教学研究発表大会」において記念講演を行われたジャクリーン・ストーン教授（米国・プリンストン大学）に玉稿を、また研究員 都守基一講師には第二号に引き続いて「資料紹介」の執筆を依頼している。

『身延山資料叢書』については、木村中一研究所主任が中心となり、身延文庫内典籍調査を身延山久遠寺に依頼し、第七巻を刊行予定である。

3)、研究所例会の開催

本年度も昨年度に継続して「国際日蓮学研究所例会」を開催予定である。

本年度は、韓国・東国大学校仏教文化研究院身延文庫等研究調査にあわせて、東国大学校仏教文化研究院に講師を依頼する予定である。

4)、科研費申請

上記事業を遂行しつつ、これまでの事業の業績を踏まえて、「身延文庫」中の資料や図書館所蔵資料を活用して、科研費の申請を行う。

以上